

法人会 全国青年の集い 高知大会を終えて

青年部会長 長濱 司

2017年11月9日(木)～10日(金)に、高知市で『第31回 法人会 全国青年の集い 高知大会』が開催され、全国から青年部会員が約1800名集まりました。阿波麻植法人会青年部からは、私と井内副部会長が参加しました。

法人会青年部会は活動の一環として、国や地域社会に貢献するという大きな志のもと、次世代を担っていく子供たちに税の役割や大切さを伝えるべく、租税教育活動に取り組んでいます。今後は、私たち自身が税の使い道についてより深く学び、子供たちと共に日本の将来を考えることを通じて、租税活動を進化させていく必要があるという方針のもと、2日間にわたり、全国の仲間たちと租税教室の在り方について意見を交換してきました。

また、今大会は『未来へ継(つな)ぐ絆「志国(しこく)高知』』というスローガンを掲げて、高知だけではなく、徳島・愛媛・香川のメンバーの力を結集し、「四国はひとつ」を合言葉に運営されました。

まず1日目は、今大会のメインの一つでもある租税教育プレゼンテーションが行われました。全国から選ばれた局連の代表が、自分たちの租税教育活動を発表します。今年は11法人会が発表し、最優秀賞は福岡局連の直方法人会が選ばれました。テーマは「税に込められた思いを伝える租税教育活動」で、内容は「10年に渡る活動の末辿り着いた、本当に伝えたい事は税の本質は思いやりの心であるということ。税金は誰かを大切に思う気持ちを合言葉に、税に込められた思いを伝える一連の租税教室活動を展開。イベントでは、自作自演の劇や自衛隊等の見学で、税の大切さを伝えた。小中学生向けの租税教室は、講師ごとに異なる内容で、高校生には、恩恵を受ける側から支える側となり、税を活躍させるため、選挙権の行使が必要であることを伝えた。」とあります。私たちが行っている租税教室は、税金の納め方と使い方を中心に行っていますが、誰かのために役に立てたいという思いやりの心を子供たちに持ってもらいたいという租税教育活動は、子供たちの心の教育と租税教室を融合させた素晴らしい取り組みだと思いました。

2日目は部会長サミット(円卓会議)が行われました。「租税教育活動の質的向上を目指して」をテーマとして、租税教育活動の質的向上を図るため、各部会長がそれぞれの課題を発見するとともに、平成29年度活動目標である「子供たちが税の使い道について考える機会を提供する」を実践するための手法について議論しました。どの単位会も、租税教室における講師不足が問題となっており、まずは法人会のPRを積極的に行い、知名度を上げて部会員の増強を行いたいという意見が挙げられました。そこから部員同士のコミュニケーションを密に取って距離を縮め、関係性を築いていければ講師も頼みやすくなるとのことでした。当法人会の租税教室においても、決まった人に講師をお願いしている状況が続いています。部会員数を増やし、租税教室は難しいことではなく、子供と一緒に税について考えられる貴重な経験だという事を伝え、共に活動する仲間を増やしていきたいと思えます。

その後に行われた記念講演では、高知県出身の間寛平さんがお笑いを始めた頃の話やアースマラソンの挑戦やその時の苦労についてなど話されて、笑いっぱなしの90分で非常に面白い講演でした。

記念講演に引き続いて大会式典と大懇親会が行われ、高知の海の幸、山の幸を堪能しながら、全国から集まった青年部会のメンバー同士の情報交換・交流を深めました。

今回の全国青年の集いを通じて思ったことは、まずは「活動を共にする仲間を増やすこと」、次に「子供たちが税の使い道について考える機会を提供する」ためにはどうすればいいのか、阿波麻植法人会青年部としてどのような方法があるのかを再構築していく必要性を強く感じました。